地域・コミュニティ活動助成

NPO法人 京おとくに・街おこしネットワーク

京都府長岡京市

京都西山古道における住民主体の散策路整備と植樹活動の取り組み

放置された竹林を整備して、陽光桜とアジサイを植樹した「陽光桜苑」

団体設立経緯

当地は長岡京として、平安京に遷都するまで10年間日本の首都でした。歴史あるこの地を知ってもらうため、民間で2007年10月に「京おとくに・観光文化検定」を実施し、試験後の2008年3月に受験者から約50名が市民活動団体を立ち上げました。歴史と自然豊かな京都乙訓地域の情報発信と、魅力ある街づくりを目指しています。人口15万人の当地域は2市1町が存在、お互いの管轄があり、私たちで当地域の魅力を発信し、行政の行動を後押ししたいと活動を進めています。

活動概要と活動対象範囲

「京おとくに・観光文化検定」受験者で、2008年3月に市民活動団体を結成。今日まで13年間、毎週月曜を活動日として定期的に事業に取り組んでいます。山道の整備やハイキングマップの作成、平和の桜陽光桜の植樹（550本以上）などを手がけています。

活動に至った理由や背景

仏教のメッカ延暦寺から見て、京都西山は極楽浄土の地でもあり、多くの歴史あるお寺が建立。なかでも善峯寺と柳谷観音の間は「**西山古道**」と呼ばれ、山岳信仰の道でした。江戸時代に最もにぎわった道です。昭和になり道路が整備され、車で参詣が可能となり、いつの間にか西山古道は廃れて獣道となってしまいました。

両寺と粟生光明寺が、2004年に「西山三山」を結成。当会が西山三山から、西山古道復活の要請を受けて活動しています。定期的に整備補修を続け、今では屈指のハイキング道として多くのハイカーが訪れています。「京都西山連峰トレッキングマップ」の販売は7000部を突破するほか、最近3年間は公園緑地「**陽光桜苑**」の造成に取り組むなど、この地域の魅力をPRしています。

古道上では自然災害によって倒木が発生。会員が協力して整備にあたる

ハートマーク入りのベンチはSNSで評判に

活動内容と成果

歴史ある京都乙訓の地を知ってもらおうと、2007年に民間で「京おとくに・観光文化検定」を実施し、約300人が受験しました。アンケートでは、皆さんがこの地域の素晴らしい歴史と自然・観光を有していると初めて知ったと回答し、当方からのボランティア活動をしませんかとの呼びかけに、約50名が手を挙げ、立ち上がったのがスタートです。当初から活動目的を明確にしており、現在も積極的な活動を展開しています。

●「西山古道」の復活・整備点検活動（継続事業）

西山三山からの要望で、設立時に1年間かけて復活、今日まで継続して整備点検活動に取り組んでいます。京都西山は寒暖の樹木が混合して生育、樹木の種類の多さは注目されており、ハイキングには素晴らしい環境にあります。

しかし、近年の台風や大雨で倒木が発生し、特に2018年の台風21号は、関西地方の山々の随所に倒木を発生させ、その復旧には長期間を有しました。西山古道も倒木被害はひどく、復旧までに相当な期間が見込まれたところを、会員の精力的な活動でどこのハイキング道よりも早く元通りに復旧し、多くのハイカーから喜ばれました。

2020年度も大雨の影響で倒木が多く発生しましたが、直ちに倒木箇所を確認し、速やかに倒木撤去などの作業に着手してきました。当年度中の整備日数は20回。倒木の処理や橋の架け替え作業、道路標識の設置、広場のベンチ補修、展望台・休憩所の整備、階段部分の補修作業などを実施しました。

ネット上での西山古道に関する投稿も非常に多くなっています。コメントも満足度が高いとの評価が多く見られ、整備する私たちの励みにもなり、皆さんの関心の高まりを感じます。JR京都駅の観光案内所に配架している当会が作製した「**京都西山古道を歩こう**」チラシは、毎月1000部程度が持ち帰られる人気チラシとなっています。

●「陽光桜苑」緑地の開設作業（主要事業）

作業所近くの柳谷観音楊谷寺は、弘法大師も訪れた平安時代開創の名刹です。当会設立以降、私たちはアジサイの名所柳谷観音に、陽光桜を累計200本、アジサイ1000本を植樹してきました。同寺のアジサイは、今では5000本を超えています。

さらに境内に、ベンチを数多く設置しています。なかでも、お寺に奉じられている愛染明王のご利益をと、**ハートのマーク入りベンチ**を開発。このベンチのハートからアジサイを撮るのがSNSで拡散し結構人気となり、さらにお寺が開発した花手水もSNSで大ヒットと、多くの観光客が参詣に訪れます。アジサイ見学に2019年は3万5000人、20年はコロナ流行下にもかかわらず2万3000人が訪れました。

ただ、柳谷観音山門から見る対

プレイバック おとくに

2011年4月17日付洛西版から

里親制度の桜、初年から開花

春になり開花を迎える陽光桜苑の桜（上）と、その植樹風景（下）。
市民から管理費の出資を募る里親制度で、関心を高める

（上）4月にはドウダンツツジの植樹を実施した
（下）パンフレットを制作してPRに努める

放置竹林の竹を使ったプランター。節ごとに穴を空けて、パンジーやビオラなどの苗を植えた

面の山には放置された竹林が鬱蒼と群生して見苦しく、お寺と相談して緑地化するとの結論に達しました。この竹林は、以前寺の門前に参詣者が宿泊する旅館が3軒ありタケノコを収穫していたのが、旅館の廃業で放置されたもので、現在は寺領になっています。そこを3年間かけて、整備を完了しました。

最初の年は、700本の孟宗竹を伐採、1年間更地にして竹の発生を防止します。翌年にはその場所に**陽光桜**と**アジサイ**を植樹し、「陽光桜苑」として開苑。柳谷観音の全景を眺めるため、ベンチとテーブルを設置して**第一陽光桜苑**と命名しました。多くのモミジが生育している反対側には、遊歩道を開設。**第二陽光桜苑**と命名し、こちらにも陽光桜とアジサイを植樹しました。

2020年度は、4月に会員が300本の**ドウダンツツジ**を遊歩道沿いに植樹。5月には、間伐材でつくった椅子14基を、第二陽光桜苑に設置しました。ハイカーの皆さんに、静かに鳥の声を聞きながら、青もみじの下で時を過ごす喜びを感じてもらうことができました。6月には第一陽光桜苑に藤の棚を設置、葉桜に覆われたベンチで語り合う姿が、長岡京市のボランティア団体の機関誌の表紙を飾りました。

8～10月には、中央部の沢路の**改修補強工事**を実施しました。柳谷観音から供給を受けた大きい石をクレーン車で運び上げ、小石を投入して枯山水風の流れに仕上げ、要所に大きな石を配置しました。周囲には花木も植樹し、四季折々の花が咲く緑地公園となりました。

11月には一般参加者を交えて**アジサイ植樹会**を実施。一般19名と会員17名が参加しました。また、伐採した竹を有効活用した「**竹プランター**」を製作。約60基をつくり、市内の公園や駅などに配置しました。

12月には、陽光桜苑をPRするための**パンフレット**を独自に作成。柳谷観音の訪問者や地元の介護施設に配布して、訪れて心を癒してくださいと呼びかけています。

民間だけでも土地の提供があれば、いろんな意見を取り入れ、多くの市民を巻き込んで一般の公園以上の公園が可能であると実感しました。訪問者からはすばらしい公園ですねと褒められ、満足度は高いです。陽光桜苑の開設にあたっては、沢路改修工事業者、植樹会参加者募集やパンフレット制作の応援団体、陽光桜の里親、ドウダンツツジの現物寄贈の団体などの協力があって、協働作業で完成できました。環境保全に関心深い皆さんの力を、特に感じた取り組みでした。

●陽光桜・アジサイの植樹（継続実施）

11年連続して毎年50本の平和のシンボル・陽光桜を植樹してきて、累計556本となりました。植樹場所は地域内80カ所を超え、今では全国でも屈指の陽光桜の名所として評価を上げています。ソメイヨシノと同じころにピンク色の花を咲かせます。なかでも柳谷の陽光桜は10年間の**里親制度**も実施しており、今では130名を超える里親が誕生するなど、毎年柳谷に足を運ぶ人が増加するようになりました。

柳谷観音もこの季節には独自に「平和を願う柳谷の陽光桜」の幟を作製し、お寺への道中に掲げてPRに努めています。今ではすっかり有名になり、静かな山奥にある名刹の陽光桜とソメイヨシノの取り合わせは、紅白の色が鮮やかで人気を高めています。

陽光桜は毎年地元京都新聞も取り上げてくれますが、10年前の陽光桜満開の新聞記事では4月17日が満開、本年私たちが観測した満開は3月26日で、実に20日も満開が早くなっています。地球温暖化の進行を身近な桜の開花でも感じ、環境保全の重要性を感じます。

陽光桜の開発者、高岡紅葉園は、毎年ミャンマーに平和を願って陽光桜を植樹しています。2020年1月、当会にも参加呼びかけがあり、会員9名がミャンマー国会議事堂前庭などに平和を祈願して植樹に参加しました。しかし、現状のミャンマーは軍が武力で国を抑えており、残念な状況にあります。

アジサイは今まで柳谷観音に4500本植樹されています。私たちはすでに1000本のアジサイを植樹しており、柳谷観音の周辺で5500本のアジサイとなりました。柳谷観音に咲くアジサイを挿し芽にして、毎年作業場にて養生しています。3年後には定植化し、柳谷観音周辺に植樹しています。

シーズンには、前述のSNSでの情報の拡散などで多くの観光客が全国から訪ねてくるようになりました。毎月17日は柳谷観音の縁日ですが、私たちも7年前から、当地の桜で燻した**スモークチーズ**を、縁日の日だけお土産として販売しています。遠くからの参詣者に人気となり、毎回完売を続けています。

縁日の日に限定販売するスモークチーズ

課題と解決方策

民有地における放置竹林対策は、行政は積極的に関与しません。そのためにいたるところで拡大し、自然の森林が竹林に侵食されているのが現状です。今回は放置竹林の台地は寺領であり、お寺の意向もあり、私たちが思い切って竹林を伐採することで公園緑地化を実現できましたが、レアケースと言えます。環境問題に行政も民間との「協働」を強化しなければ、との認識を持ってもらえる一例となればありがたいです。

当法人理事長が長岡京市の市民活動サポートセンターの理事長も兼務しており、協働して行政と民間が取り組むきっかけを増やしていきたいと勉強会を立ち上げることとなりました。行政、サポートセンター、サポートセンター登録団体の3者30名で、4月から1年間にわたり毎月1回「協働」勉強会を実施し始めたのは前進としたいです。

今後の予定

私たちはさらに自然の良さを感じる地域となるように、植樹活動や西山古道の整備活動を進めるとともに、多くの市民が参加できる環境整備作業を増やしていければと願っております。アジサイの植樹活動は、今後も年2回実施していく予定です。

地域内の市の公園をボランティアとして管理する周辺住民から、陽光桜の植樹希望の手が挙がりつつあります。私たちが桜やアジサイの樹木供給と植樹を担当、地域住民が行政の委託を請けて日常の管理業務を担う形を、いろんな地域で増やしていければと期待しています。

特定非営利活動法人 京おとくに・街おこしネットワーク

2008年2月設立、同年12月法人化／メンバー数：44人／代表者：理事長　中山 秀亞（なかやま・ひでつぐ）

●〒617-0833　長岡京市神足2-3-1 バンビオー番館
長岡京市市民活動サポートセンター内

☎090-5165-8405　FAX075-951-1657

nisiyama3zan@yahoo.co.jp　kodou1.jimdo.com

www.facebook.com/Npo法人京おとくに街おこしネットワーク-2230595857204146/

私たちは歴史と自然豊かな京都おとくに地域の情報発信と、魅力ある街づくりを行っている団体です。汗を流し、語り合い、自然のなかでの活動は、心豊かになり楽しさあふれます。地域の皆さんと交流できる素敵な場所です。